フランス語への招待

フランス語を始めよう！

みなさんは、フランスについてどんなイメージを持っていますか。おしゃれでロマンチック、芸術の都パリ、エッフェル塔、EU の中心的メンバー、フランス料理、ワインとシャンパン、長いバカンス、「自由・平等・友愛」。しかし、なんと言っても、フランス文化の中心にあるのは言語、フランス語なのです。

およそ一世紀も前、詩人萩原朔太郎は、「ふらんすへ行きたしと思へども　ふらんすはあまりに遠し」と謳いました。かつて、日本人がフランスに抱いていた憧れをよく表す言葉です。しかし、飛行機でいつでもパリに行けるようになった今なお、私たちはこのフランスという国に、どこか変わらぬ理想像のようなものを抱いているのではないでしょうか。こうした漠然とした憧れは、外国語の学習を始めるときに大きなきっかけになるものです。

◆世界中で話されるフランス語

フランス語は、英語と同じく世界中で話されている言語です。フランス、ベルギー、スイス、カナダ、カリブ海諸島、アフリカ諸国（セネガル、コンゴ、コートジボワールなど）、モナコ、ルクセンブルク。以上の国は、フランス語が公用語、またはその一つになっています（世界で29ヵ国）。さらにマグレブ諸国（モロッコ、アルジェリア、チュニジア）、ニューカレドニア、タヒチ、ヴェトナム、レバノンといったところでも通用します。つまり、フランス語さえ学べば、みなさんは、フランス以外のこうした世界各地のフランス語圏（フランコフォニー）の人々と、すぐにでもやり取りできるようになるのです。

フランス語は、EU や国連などの国際機関では公用語として重要な位置を占めています。また、オリンピックのときに、アナウンスを聞いてみてください。そこでは第一公用語として、英語以上の地位を与えられているのです。

◆フランス語の特色

フランス語は発音に特徴があります。つぶやくだけで何か独特の美しい響きが漂うことは、フランス映画を見たことのある人ならご存じですね。これは喉を軽くこする r の発音や、鼻母音（鼻にかかった「アン」とか「オン」）があることと関係しています。また、英語と違って抑揚が少ないことから、エレガントでゆったりとした雰囲気があります。たとえば、リエゾンといって音を連結して読む、などの規則も特徴的です。フランス語で pot は単独では「ポ」ですが、pot au feu（火にかけた鍋）では「ポトフ」になります。これがリエゾンです。また、語尾の子音を読まないのも特徴の一つで、レストラン restaurant、グルメ gourmet、ショコラ chocolat、パフェ parfait など、普段私たちの身の回りにある言葉がその例です。最初は発音の規則に驚くこともあるでしょうが、徐々に感覚をつかんで慣れていけば、そんなに大変なことではありません。

フランス語の文法の特色は、きちんと体系化されているということです。動詞の活用が豊富なので、最初はややこしい印象を受けますが、一年間じっくり時間をかけて、よく使う動詞の活用と基本構文を身につけてください。初級レベルでもフランス旅行で十分サバイバルできるはずです。もちろん、そのためには「読み・書き」だけではなく、「聞き・話す」を日ごろから訓練しておく必要があるでしょう。

◆美しさだけではない

フランス語は、美しいだけではなく明晰な言語といわれています。「明晰でないものはフランス語ではない」という言葉があるくらいです。実際、デカルトをはじめとして、重要な哲学や思想を生み出してきたのがフランスであり、その論理的な精神は、言語と深く結びついているのです。一方、フランス語の豊かな語彙は、偉大な文学作品を生み出す源となりました。映画やミュージカルで有名な『レ・ミゼラブル』は、フランス文学の金字塔ともいうべきユゴーの名作です。フ

ランス語の文法をマスターすれば、辞書を引きながら詩や小説を原文で読むことも不可能ではありません。

語学力を試したい人には、資格試験として「仏検」（実用フランス語技能検定試験）があります。１年生で５級を取得、２年生で４級～３級、３年生で２級、というようにして、ぜひ積極的に挑戦してみてください。どの級を受けたらよいか迷ったら、先輩や担当の先生に相談してみましょう。もちろん合格すれば、資格として履歴書に書くことができます。

◆文化の多様性を知る

フランスは、普遍的であるとともに、多様性を重んじる国でもあります。みなさんが現地に行ってまず驚くのは、じつに種々雑多な人たちがフランス語を使って暮らしているということでしょう。自由の国フランスは、その長い歴史の中で、様々な出身の人々を受け入れてきたという経緯があります。パリでは、たとえば北アフリカのクスクスやケバブ、ヴェトナムのフォーの店などをよく目にします。パリは区によって非常に多彩でエキゾチックです。もちろん、街角のパン屋に行けば、焼き立てのフランスパンや香ばしいクロワッサンも食べられます。

首都パリ以外の地方も、独自の文化圏を持っています。ワインやチーズをはじめ、各地域にたくさんの特産品があります。ブルターニュ地方のガレットやシードル、ノルマンディー地方のカマンベール、アルザス地方の白ワイン、ボルドーの赤ワイン、南仏プロヴァンスの郷土料理など、各地の特産品をあげたらきりがありませんが、どれも「美（うま）し国」フランスの豊かさを物語るものです。

フランスと日本は長い交流の歴史があります。フランス人は日本文化が大好きです。最近では和食がブームだといいます。また驚くことに、フランスはヨーロッパ最大の日本マンガの消費国です。パリの郊外で行われる「ジャパン・エキスポ」（日本文化の博覧会）には、毎年多くの参加者が集まって盛り上がります。最近では、カンヌ映画祭以外にも、アングレームやアヌシーの国際フェスティバルで、日本のアニメやマンガが受賞しています。こうした身近な話題も、みなさんがフランス語を学ぶきっかけになればと思っています。

フランスに行こう！

目標があると、語学の勉強はぐっと楽しくなります。シャンゼリゼを歩いて凱旋門に行きたい、オペラ座でバレエを見たい、ルーヴルでモナリザを見たい、モン・サン・ミッシェルに旅行したい…！きっかけはなんでもよいのです。そして継続は力なり。ぜひ自分の夢を見つけて、それに向かって一歩ずつ進んでいくことを願っています。

それでは４月にみなさんと教室でお会いできるのを楽しみにしています。

フランス語に Bienvenue！（ようこそ！）